



GW スペシャルイベント [D-K LIVE 2010 & Viento 風の刻印コンサート]



▲ Viento (手前左右) とトランスコンティネンタル・デュオ (手前中央)、声楽家の福嶋由記さん (後方) による第二堅坑櫓を背にしたのコラボレーションライブ。Viento 流の鎮魂歌が辺りを包んだ。



▲ Viento の吉川万里さん (上) と竹口美紀さん (下) 炭鉱のための組曲を披露。

大きな夢を担っています。は、荒尾の活性化を見守る「世界の宝」を目指す万田坑。指すことを通じて荒尾の元気を結集し、まちに活力を生み出すことであり、万田坑がかつて生み出していた活気を市民の手で再び取り戻していくことです。その大切な象徴が「荒尾の宝」万田坑です。

田坑とともに見る「つぎの夢」は、世界遺産本登録を目指すことを通じて荒尾の元気を結集し、まちに活力を生み出すことであり、万田坑がかつて生み出していた活気を市民の手で再び取り戻していくことです。その大切な象徴が「荒尾の宝」万田坑です。

田坑とともに見る「つぎの夢」は、世界遺産本登録を目指すことを通じて荒尾の元気を結集し、まちに活力を生み出すことであり、万田坑がかつて生み出していた活気を市民の手で再び取り戻していくことです。その大切な象徴が「荒尾の宝」万田坑です。

代の中で既に一度、役目を終えた万田坑。この地に再び多くの人が集まり、活気に満ちる―それは閉山した当時は誰も想像しなかったことでしょう。しかし今回集った人の力を、荒尾をより元気にする推進力に変えるための目的の一つが、世界遺産への登録といえるでしょう。

田坑が九州・山口の近代化産業遺産と群の一構成資産として世界文化遺産本登録を目指すことは、最終目標ではありません。世界遺産登録という目標はとも大きいものです。だからこそ、行政と市民が協働で一丸となり、登録までの道のりにあるさまざまな課題に取り組みなければなりません。この取り組みを進めることこそ、荒尾を「より住みよいまち」「誇りあるまち」にしていくことにつながります。これが、世界遺産登録へ向けてまい進する大きな意味です。

田坑が九州・山口の近代化産業遺産と群の一構成資産として世界文化遺産本登録を目指すことは、最終目標ではありません。世界遺産登録という目標はとも大きいものです。だからこそ、行政と市民が協働で一丸となり、登録までの道のりにあるさまざまな課題に取り組みなければなりません。この取り組みを進めることこそ、荒尾を「より住みよいまち」「誇りあるまち」にしていくことにつながります。これが、世界遺産登録へ向けてまい進する大きな意味です。

市民参加で「つぎの夢」へ！ 新たな一歩を踏み出した万田坑を、みんなで「誰もが憩える癒しの場」にしませんか？

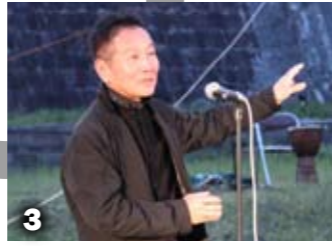
- 日時 6月13日(日) 午前9時45分集合 作業は午前10時～2時間程度
- 持ってくるもの 軍手、移植ゴテ、帽子、タオル、各自飲み物
- 集合場所 万田坑正門前 ※雨天決行

[問]2030 あらお有明優都戦略 文化・スポーツ交流拡大プロジェクト部会 事務局 社会教育課 ☎63-1681



2030 あらお有明優都戦略 事業
万田坑に芝生を植えます！

Special



▲1・2・5月1日と2日の日没後に行われたD-K LIVE (デジタル掛け軸)の様子。投影される映像は地球の自転と同じ速度で変化し、圧巻。3日D-K創始者の長谷川章さん。1日に行われた市長との対談でも、万田坑の活用と荒尾の可能性について熱く語った。

「つぎの夢」へ。

万田坑、復坑そして

Close Up

4月25日(日)の万田坑グラウンドオープンから5月5日(水)までの11日間、万田坑にはおよそ2万1千人の人が訪れました。5月1日(土)からのゴールデンウィークイベントは、毎日多彩な催しが開催されました。地域で活躍しているさのよいチームやストリートダンスチーム、荒尾市に縁の深いバンドやシンガーによるライブ、県内で活躍しているアーティストやタレントによるステージなどが繰り広げられました。

これらの催しは地域に眠る底力の一端を覗かせてくれるものであり、また、万田坑に市内外から訪れた多くの人に、荒尾の歴史と元氣な姿に触れてもらうことで、荒尾市をより深く知ってもらうきっかけになったことでしょう。そしてこのグラウンドオープンが、世界遺産の本登録に向けて大きな足がかりとなるように、この成果を踏まえて今後も万田坑を保存しながら活用していく必要があります。



▲ステージイベントだけでなく、万田坑内の詳しいガイドも行われた。元炭鉱マンによるいきいきとした説明により、万田坑の価値の輪郭がくっきりと浮かぶ。

▶イベント期間中設置されていたミニSL。大人も子どもも、多くの人が乗車した。子どもたちの楽しそうな笑顔とともに、大人の目の輝きが印象的だった。



▲2日の「田川創作炭坑節 CDR21」によるパフォーマンス。若さあふれる新しい炭坑節。



▲各ステージ間合いの「わくわくステージ」。観客参加のクイズで、万田坑をより身近に。

▶5日の「新幹線カウントダウン」イベント。荒尾市の「マジックリレー」、玉名市の「たまにゃん」。この地ゆるキャラも参加して、荒尾市から玉名市へ、リレーイベントのペナントがリレーされた。



Manda Coal Mine's Topics!

◆万田坑を会場に結婚式



▲晴天のもと、万田坑を背にして晴れやかな笑顔の新郎新婦。末永くお幸せに。

5月8日(土)、万田坑で結婚式が行われました。式を挙げたのは、新郎・中野浩志さんと新婦・知美さん(ともに大牟田市在住)。浩志さんが理事長を務める「大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ」が主催した万田坑での催しに、知美さんが参加したことが出会ったそうです。二人は列席者のほか、万田坑見学者など多くの人に祝福を受けました。思い出の地・万田坑から、夫妻も「新たな一歩」を踏み出します。

◆万田坑ポスターが入賞!



「つぎの夢へ」と題した万田坑をPRするためのポスターが、第60回日本観光ポスターコンクール(主催:日本観光協会)で入賞を果たしました。モノクロにオレンジの文字を載せたノスタルジックな雰囲気の中に、未来への希望と意気込みを表現しています。